

令和7年度新見市地方独立行政法人評価委員会（第1回）議事要旨

日 時 令和7年7月7日（月）13:00～15:00

場 所 新見公立大学 本館2階 会議室A

出席者

評価委員会 岡崎委員長、中西委員、加藤委員

公立大学 公文学長、小田副学長、鹿島事務局長、斎藤学生部長、矢嶋学生部次長
武田次長、宮崎課長、上山課長、眞治課長補佐、太田主事

事務局 西川課長補佐、津内主任

■要旨

「令和6年度事業報告書」、「令和6年度に係る業務の実績に関する項目別実績報告書」、「令和6年度財務諸表」、「令和6年度決算報告書」の各資料に基づき、公立大学から説明を受けた。

今回の評価委員会では、令和6年度事業実績についての大学からの説明にとどめ、次回評価委員会（7月18日（金）13:00から、市役所本庁舎3階第4委員会室）にて評価を審議することとした。

■詳細

I 教育・研究等の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

1 教育

1) 教育の内容

委員：シミュレーショントレーニングとは具体的にはどのようなものか。

大学：付属病院がないため、シミュレーター（パソコン）を使って、この患者さんは今このような状況にあるというのを学生が周りから見て、判断して勉強する。学生の教育だけではなく、新見市内で勤務されている方々のリカレント教育（再教育）にも使っている。

2) 教育の実施体制

委員：ひだまりのいえの利用状況と成果は何か。

大学：駅西サテライトに3つの部屋があり、利用者が1月あたり900人から1000人いて、利用内容は学生や一般市民など、地域で活動をされている方の懇談の場になっている。特に力を入れているのは、こどもから大人までということで、小学生・中学生・高校生あたりの心のケア、不登校や発達障害を連携施設である岡山大学病院、国立医療センターから専門医を招いて回数が足りないくらい利用者があるため、対応している。こどもたちにもモンテッソーリという育児方法を、気になる子に行っている。もっと充実させて、継続できるようにと思っている。

2 研究

1) 研究の内容

委員：地域連携を推進している中で、中山間地が抱える問題がいろいろあるが、新見市もこれだけ人口が減少していたら、それにプラスして拍車をかけた問題がでてきているか。人口の減り方が早いため、それによって想定している以外の問題が発生しているか。

大学：取りかかっているのは、移動のこと。公共交通機関が新見はなかなかで、高齢の方が閉じこもってしまうため、買い物ひとつ行くのでも行くのが難しいし、荷物を持って帰れない。どのように移動の方法を確保するか、または孤立させないか。例えば、高齢者施設までの送迎バスを、送迎だけでなくもっと協力して居場所を作る。そのようなことが次々出てくる。鳴滝塾でいろいろテーマを決めて講演会を行っている。

2) 研究の実施体制

委員：摂食嚥下障害看護分野を重点的に推進するメリットは何か。如何に重要になってくるか。

大学：土曜日に岡山市で全国大会（口から食べる幸せを守る会）が行われる予定で、高齢者の方、障害のあるお子さんたちに医療的立場で、例えば、誤嚥性肺炎が恐ろしいから絶食だとかいうことがかなり強調されていて、本当は口から食べたいが、そういったことに対する努力が足りない。特に地方はできないということで、全国的に、いわゆる障害のある方、高齢者の方を口から最後まで人生を全うできるということが大きなうねりになってきている。障害のある方への正しい食事のとり方、姿勢がスプーン1杯でも違う。そういったことで、需要が高い。さらにこれから高齢社会で高まるだろうということで、3年くらい前から、専門家の方たちと連携するようにして、新見市内でも講演会や、実践をしてやりましょうということで、専門的な教育をする専門看護師が絶対必要になる。全国でまだ非常に少ない。

3 学生の確保及び支援

1) 学生の確保

委員：健康保育学科が、新たな総合型選抜を導入したから倍率が3.4倍になったのか。過去を見ると3倍を超える年は5年間でなかったが今年はすごく倍率が高かった。看護学科は、2倍を下回る年は5年間でなかったが、1.2倍と低めになっている理由は何か。

大学：大学の入試は、一般選抜（共通テストの点数などを用いて選抜するもの）、学校推薦型選抜（学校長の推薦・小論文・面接による選抜）、総合型選抜（昔のAO入試、点数より人物重視、時間をかけて人物を丁寧に見て行って選抜を行う入試）の3種類があって、1番早く総合選抜を10月の半ばに実施した。3種類のレポート（過去自分がどのようなことをしてきたか、現在それがどのように役に立っているか、未来は何をしたいか）を提出させ、学内で採点を行った。当日は3つのレポートに基づいて、模造紙またはパワーポイントで15分間プレゼンテーションをし、残りの15分間で面接や質疑応答を行うという形で実施した。合格者が決まった後も、入学に向けて、大学教員が2回、個別に電話相談を行い、本人のやりたいことを聞いて進路を整えていく、もしくは大学でこういうことをしたらいいというアドバイスをしたり、学習支援が必要な学生には準備を学内で進めたりなど手間暇をかけた入試を実施した。これにより、前年度まで1.2倍など危なかったが、急に3倍に跳ね上がった。なるべく早く入試を行いたい学生も多いため、それにも合致したと思われ、倍率が上がった。

看護学科は、すべての入試が1月1日、共通テストが終わってから出願しないといけない入試になっているため、早期入試とは逆行した形で、出願時期が遅いため不人気だった。また、地元志向が全国的に強くなっているため、岡山の大学であれば岡山県の人しか出願しなくなっている傾向が出てきている。山口県の周南公立大学、下関市立大学が看護学科を作ったため、九州か

らの志願者が全部そこでせき止められるという形で志願者が減となっている。

委員：3. 4倍まで上がっているが、肌感覚として、やる気のある学生だけが来ているか、そうでもない学生が半分くらいいるか。

大学：入試を行ったところ、かなりレベルが高い、やる気があるもしくは学力的にも進学校クラスの学生が出願しており、入学した学生をみると、SAなど何がやりたいなどかなりの目標意識を持った学生が入っている。入学前に、教員が電話を2回して整えているため、大学に入ってからこうする、卒業してからこの形に行くというのが明確な学生がきていて、高校時代もボランティアなど努力をした学生が入ってきているため、初年度に関してはかなり良い学生が確保できたと考えている。

委員：前回まではホームページの充実などいろいろなことが書いてあったが、同じようにされているか。

大学：同じ形で広報戦略を行っている。

委員：今年（令和6年度）から古川教育財団の奨学金が始まったが、選ばれた23名は1年生から4年生で23名か。これからずっと続いていくのか。毎年何人くらいが選ばれていくのか。

大学：最初の年のため、2年生から4年生まで23名選ばれている。今年以降は、2年生について、1年生の時の成績などを元に選ばれる。今年は15人応募して、採用されている。継続的に2年生を採用していただける予定。今年から月6万円に上がっている。

2) 学生に対する支援

委員：経済的なところで、いろいろ奨学金などあるが、これでも学生は足りていないか。

大学：多子世帯（第3子）の支援が今年から始まって助かっている学生がいる。ふるさと納税の寄付金の補助で助かっている学生もいる。成績要件で切ってしまうので、そこで落ちてしまう学生もいたり、親の収入が多いと落とされる学生もいたりするため、そのあたりは救いきれていない。

Ⅲ 地域に開かれた大学づくりに関する目標を達成するためにとるべき措置

委員：発達支援センターの関係の活動は、まだまだ回数を増やした方が良く利用があるのか。

大学：ある。1人1人の時間がかかる。なかなか専門医を確保するのが難しい。幸い、岡大小児科と連携ができています。継続させるのに人の確保がいる。医師だけではなく、周囲の色々な立場の方が関わらないといけないのでそちらの人の確保も必要。教育との連携が徐々に出てきているため、それが1番大事な点だと思う。

Ⅳ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 組織の改善及び効率化

委員：教職一体化の理念、教職協働の理念はこれまでも前面にでていたか。理念が出てきた時期はいつごろか。

大学：数年前に、文科省が大学として同じ方向を向いて見ていかないといけない、教員だけが1つの方向を見ていてもダメだ、職員もただ事務だけをやっていればいいというわけではなく、組織を運営していく上で、みんな対等な立場で組織の一員のため一体化して協力してスムーズにガバナンス

スを広めていこうと国の掛け声もあり、各大学が一生懸命取り組んでいる。

2 人事の適正化

委員：教職員の数は足りているのか。先生が地域に出たりして、自分の研究ができないなどがあるか。

大学：あるかもしれない。看護学科は、実習についていくためなかなか研究の時間が取れないという意見は聞こえてくる。働き方改革もあるため、どの大学も病院も困っているが国の方針で守らないといけない。実習で教員がついていくことがあるため、増やしてほしいということはあるかもしれない。職員は、市からの派遣職員とプロパー採用している職員と期間任用職員と派遣会社からの職員のバランスを取りながら業務に対してあてている。専門性の高い業務についてどこまで期間任用職員で行えるか。おけるところであればだんだんプロパー化を進めていきたいと思っている。

委員：割と最近の考え方か。

大学：2022年の大学設置基準改正で事務はただの事務ではなく、教員と一緒に両輪でしなさいと改正された。国が大学の評価に用いている。FD・SD集会でテーマを決めている。

VI 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するために取るべき措置

1 自己点検及び自己評価

委員：企画評価室のメンバーはどのような構成か。

大学：総務課課長補佐（室長）、総務課プロパー2名、教務課プロパー1名の計4名で構成している。当時のプロパー職員を中心に構成している。室長として、いろいろな企画評価関係の会議に積極的に関わって、内部の事務等を行っている。

2 情報公開及び情報発信

委員：ホームページの閲覧数は、令和5年度が143万件、令和6年度が72万4千件と、ここだけ見ると半分くらいになっているが、自己評価「4」の理由は何か。

大学：自己評価は中期計画に対する進捗状況、昨年中間評価だったが、今年と来年と2年間残すところで、中期計画の進捗状況を見据えた評価をしないといけないということで、学内では実績をまとめたり計画を立てて取組んだりしており、この項目については中期計画に対する情報公開・情報発信のこの計画に対する進捗の部分でいうと概ね達成する以上の実績を積み上げていっているということで「4」となった。

VII その他業務運営に関する重要事項を達成するためにとるべき措置

2 危機管理及び安全管理

委員：非常時連絡先で、異動等があった際には、非常時連絡票を再作成し、学科長へ配布とあるが、学科長から教職員に配布されているのか。

大学：学科長に配布し、学科長が学科内での連絡体制を学科単位で作成している。そういったものを総務課で取りまとめた上で、学科長へ配布して、学科長が学科内でそれを共有するという流れになる。

委員：非常時の場合、万が一のことがあった場合、学科長経由ではなく直で行くような連絡網もあるか。

大学：ある。前からある電話の連絡網とは別に直接教職員に一気に連絡が流れるそういった仕組みもある。安否確認などそういったこともできる。

委員：防災訓練に303人が参加したとあるが、半数切っているがこれは実習などで出てこれなかったのか。

大学：そのとおり。どこかの学年のどこかの学科は実習がある。逆に休みにすると新見にいないため、なかなか厳しい状況にある。できるだけ多くの学生が参加できるようなスケジュールは毎回課題である。

委員：防災訓練については、303人は結構参加していると印象を持った。地震想定だが、どのような流れの訓練をしているのか。

大学：敷地内にいる学生や教職員を対象に、地震が起きたという放送をし、避難場所・避難経路の案内・誘導の確認が中心。地震のときの避難訓練はそうだが、プラス集まったところで危機管理室や消防本部のいろいろな話やレクチャーを併せて行っている

Ⅷ 予算、収支計画及び資金計画

委員：実態には影響はないが、純資産変動計算書の中で、未処分利益を積立金に振り替えているが、どういった意味でこのような処理をしているのか。

大学：令和5年度に当期総利益が6億発生して、評価が終わった後にどこに積むかで処理をしている。（毎年の処理）

委員：決算報告書の中で、人件費が3700万円増えているのは人事院勧告に従っているのが主な増加原因か、人員がすごく増えたのか。

大学：退職金も増加していることが主な要因で、今年は5800万円程計上しているためそこが大きく変わっている。

委員：それは引当金を積んでいないのか。

大学：今回でいうと、令和6年度に退職金として発生した実の額を新見市に要求して翌年度運営費交付金としてもらっている。

委員：実質的な負担にはなっていない。退職金が期ずれで入ってくるということか。

大学：そのとおり。

委員：決算報告書の中で、当初予算では積立金取崩額として6千万くらいで帳尻があうかとしていたが、2千万くらいに持っていけているのは、まあまあ想像よりは業績が良かったと思って良いか。問題ない決算と思ってよいのか。

大学：そのとおり。

委員：財務諸表のキャッシュ・フロー計算書の投資活動によるキャッシュ・フローの1千7百万円は何か。

大学：大部分は図書の資産になる。本来であれば、3号館1階・4階の電気式化の工事もここに含まれるところだが、完成時期が年度末になったことで支払いが4月になり、ここでは計上できず、来

年度のキャッシュに影響されることになる。

委員：未払いか。

大学：そのとおり。

委員：すごく数字が小さい。

大学：本来であれば、ここにプラス6千、7千万くらいは足されるはずだが、少なくなっている。

委員：退職金について、プロパーの職員が増えてきたら、退職金引当金などの方向も検討した方が良い。

監査法人もきているため、相談した方が良い。

大学：そのあたりは相談したい。